

## 外国人の人権尊重に関する実践事例

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

和歌山県和歌山市

#### ○学校名

和歌山市立宮前小学校

#### ○学校のURL

<http://www6.wakayama-wky.ed.jp/miyamae/>

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常の学級】23学級、【特別支援学級】5学級、【合計】28学級

#### ○児童生徒数

【全児童生徒数】692人（平成28年5月1日現在）  
（内訳：1年生111人、2年生113人、3年生125人、4年生118人、  
5年生102人、6年生123人）

#### ○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

和歌山市ブロック人権教育研究会（H.17年度研究指定 H.18年度研究発表）

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

##### 【学校の教育目標】

健・心・知の育成

- 「健」➡ 明るく健康で調和のとれた身体の育成。  
「心」➡ 相手を思いやる豊かな心の育成。  
「知」➡ 知識や技術、思考力や判断力、表現力などの  
確かな学力の育成。

##### 【人権教育に関する目標】

基本的人権を尊重し、部落差別をはじめあらゆる差別をなくそうとする意欲と実践力のある子供を育てる。

#### ○人権教育に係る取組一口メモ

同和教育を基に、私たち及び子供たちの人権意識を高め、保護者や地域の方々への啓発活動に取り組む。

## ○人権教育に係る取組の全体概要

### 【具体的な取組】

- 理論学習を進める。
  - ・現教の同和研修の一環として行う。
  - ・同和教育への取り組み方について研究討議する。
  - ・地域の事象から学ぶ。
- 人権・平和学習に取り組む。
  - ・同和人権学習プランを推進する。（年間計画を立てて取り組む）
  - ・資料・副読本・図書・ビデオ等、教材を充実させる。
  - ・教材研究に努める。
  - ・教材を精選する。
  - ・子供の生き方とつながる学習になるように指導方法を工夫する。
- 子供や地域の実態をつかみ、実践・指導に生かす。
  - ・子供や保護者の願いを受け止める。
- 保護者への啓発をはかる。
  - ・地区懇談会や同和学习参観等を通して、同和問題についての正しい理解を定着させる。
- 東和ブロック人権教育研究会による研修を進める。
  - ・「幼・小・中一貫した同和・人権教育」を行うために研修を深める。
- 和歌山朝鮮学園 和歌山朝鮮初中級学校との交流を進める。
  - ・部会で具体案をたてる。
  - ・プール交流やその他の交流会を行う。
  - ・夏休み交流作品展を行う。
  - ・両校の職員の交流をもつ。
- 男女共生教育を進める。
  - ・教材開発に努める。
  - ・子供への呼び方は、男女とも「～さん」を継続する。
  - ・男女混合名簿を継続して取り組む。

## 3. 実践事例の内容

### ◆朝鮮の文化や習慣を理解し、朝鮮初中学校の友達との交流を深めよう。

#### 【取組のねらい・きっかけ】

この取組は、平成4年頃から検討を始めていた。当時から、宮前小学校の校区には、県下で唯一の和歌山朝鮮初中級学校（以後、朝鮮初中級学校と記入）があり、本校の児童が朝鮮初中級学校の児童とふだんから出会う機会があるものと思われていた。

このような状況を鑑み、児童が朝鮮の文化や風習を違和感なく受入れ、仲よく接していけるように、朝鮮初中級学校との交流に取り組みたいと以前から考えていた。また、朝鮮初中級学校の方からも、すぐ近くにある本校との交流を進め、互いに理解を深めたいとの要望が出されていた。そこで、両校の教員で話し合いを進めていく中で、自分たち自身が、お互いのことをほとんど知らないということに気付いた。

それは、子供たちにとっても同じことであると考え、早急に交流を行っていく必要があるということで意見の一致を見た。

当時の学習指導要領の基本方針の中に、『文化と伝統の尊重と国際理解の推進』が掲げられ、社会科や道徳等の学習を中心として、正しい国際理解と親善の心を育てることが明記されている。

このような学習指導要領の内容を踏まえ、また、本校が長年にわたって取り組んできている同和教育との関わりも考え、是非とも交流を具体化していきたいとの強い意向の下に、平成4年度から朝鮮初中級学校との交流実現に向けて話し合いを続けていくことになった。

#### 【平成28年度の実施内容】

児童が朝鮮の文化や風習を違和感なく受け入れ、仲よく接していけるように、次のような朝鮮初中級学校との交流に取り組んでいる。

##### (1) 低学年のプール交流

1学期に行っているのが、プール交流である。朝鮮初中級学校にはプールがないこともあり、交流の一環として、本校2年生と朝鮮初中級学校の低学年の児童がプール交流を行っている。

##### (2) 保護者間や地域における交流

夏休み中には、育友会主催の「みやまえ夏祭り」に、オモニ会（朝鮮初中級学校に通っている児童の保護者が中心となっている会）が模擬店を出店し、チヂミや焼き肉、トッポギ等を参加者に販売している。このことは、長年、本校と交流を積み重ねてきていることがきっかけとなっている。この取組を通して、保護者の方や地域の方との交流として広がってほしいと願っている。

##### (3) 「夏休み交流作品展」での学校全体での交流

2学期の初めには、両校の児童が夏休み中に作った作品を宮前小学校に展示する「夏休み交流作品展」を行っている。その中で、低学年・高学年に分かれて歌や群読などの発表を行う全体交流を行っている。この交流を通して、朝鮮初中級学校の児童の元気な歌声に、本校の児童は驚き、自分たちも頑張ろうという気持ちを持つ良い機会になっている。その後、各学年に分かれて、自己紹介やゲーム、両校児童の作品の見学等のクラス交流も行っている。ただ、朝鮮初中級学校の児童が学年4～5名なので、本校は、学年1クラスの代表交流という形になっている。

##### (4) 教職員の交流

2学期末には、本校の職員と朝鮮初中級学校の職員との交流会も行っている。交流会では、それぞれの伝統芸能や文化に触れたり、学校の様子や児童たちのこと、ふだんの生活のこと、教科書の内容や授業の進め方等について話をしたり、毎年、会場を変えながら（それぞれの学校を交互に訪問して）交流を深めたりしている。時には、和やかな雰囲気での茶話会という形式でも交流している。

#### (5) クラス独自の交流

これ以外にもクラス独自で朝鮮初中級学校の児童との交流に取り組み、更に交流を深めている。

今年は、4年生の1クラスで、「朝鮮初中級学校の子と仲良くなろう」という単元で、朝鮮の文化に興味や関心を持ち、朝鮮初中級学校の子たちへの理解を深めるための取組を行った。(別紙参照)

#### 【取組の主体や実施体制】

プール交流は2年生の同和教育部のメンバーや担任が中心となり、活動内容を検討し、当日の運営も行っている。夏休み交流作品展は、学習支援推進教員と同和教育部で検討を行い、準備から全体交流会、後片付けまでを行っている。職員交流は、同和教育部で検討を行い、企画・運営の仕事を分担して行っている。

### 4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

○ 担当者が固定されずに変わっていくことで、引き継ぎが難しくなっている。ここ数年は、両校とも担当者が固定しているので、連絡調整が比較的スムーズに行うことができるようになった。以下の課題に留意し取り組んできた。

まず、お互いの学校行事との日程調整が難しくなっていることである。日程の関係で、夏休み作品展の会場が以前のように体育館で実施することが難しくなり、会場を2つに(図工室と会議室)分けて行っている。そのため、作品の監視体制が十分に取れないということがある。

展示会場を2会場にすることで、特別教室を授業で使用する制限されることがあるが、しばらく別の教室での授業をお願いすることで、作品交流会を続けることができている。また、2会場になることで、監視する教職員が以前に比べて多く配置しなければならなくなり、管理職を始め、専科や初任者担当の教員にも監視してもらい、場合によっては、長時間にわたり監視についてもらう等、工夫して取り組んでいる。

○ クラス交流において、本校は毎年、学年の代表クラスと交流しているため、児童によってはクラス交流に参加できる(朝鮮初中級学校の児童と交流できる)回数がかかり違ってくるということがある。

そのため、一回の交流時間を増やすことで、一度に交流するクラス数を増やして(相手校と相談が必要)、本校児童の交流参加数を増やしていく手立てを考えている。

### 5. 実践事例の実績、実施による効果

毎年、交流を続けていることにより、校区に住んでいる朝鮮初中級学校の児童は、交流の時に知り合った本校児童と出会ったときは、挨拶をしたり、交流会のときの話をしたりしているということである。中には、一緒に遊んでいる子もいる。

また、本校の育友会主催の夏祭りにおいても、育友会より朝鮮初中級学校に模擬店の出店をお願いしたところ、喜んで参加してくれることになった。一昨年度から出店してくれることになったが、チヂミや焼き肉、トッポギ等はすぐに完売すると

いった盛況ぶりである。オモニ会の方が運営しているため、朝鮮初中級学校の子供たちも一緒に参加していて、本校の児童と「こんばんは、久しぶり」と交流を深めている姿も見かけた。

校内の児童の中には、外国籍の児童も数人いるが、(中国籍や韓国・朝鮮籍等)周りの子と仲良く学習し、遊ぶことができています。

これらの取組を通して、子供同士が、日常的に挨拶をしたり、行事等でも積極的に交流を深めたり、校内において国籍に関係なく友達を受け入れたりする等、よりよい人間関係を築くことができた。

## 6. 実践事例についての評価

### (1) 教職員及び保護者の交流の深まり

地区懇談会において、本校の『人権・同和教育の取組』を保護者や地域の方々に説明したときに、『子供から「今日、初中級学校の子と会ったよ」とか「初中級学校の子と話をしたよ」という話を聞いたことがある』と保護者の方からの話があった。このような光景がもっともっと増えていくことを願っている。

教職員の中にも、運動会や学習発表会を見学に行き、感動した内容を同僚に伝えることで、その話を聞いた同僚も見学に出かけ、感動して帰ってきたとのことである。

### (2) 中学校への取組の拡大

校区内にある中学校においても、小学校との交流のパイプを更に太くしていくために両校生徒の交流を始めている。また本年、地域の子ども会の生徒と朝鮮初中級学校の生徒との交流会も持たれた。

### (3) 地域の方々の韓国・朝鮮文化についての理解の深まり

地域の方々の中には、オモニ会のキムチやチヂミ等を定期的に買うことで、交流を続けている方もいる。また、大阪のコリアタウンに出かけ、コリアタウンのできたいきさつを教えてもらったり、韓国・朝鮮語を教えてもらったり、チャンゴの楽器を体験させてもらったりすることで、韓国・朝鮮の文化について学習する機会も持っている方もいる。

### (4) 外国人の人権を尊重した取組

本校と朝鮮初中級学校、両校が交流を続けていくことで、韓国・朝鮮籍の人たちだけでなく、学校が地域のコミュニティともつながりを持ちながら、外国籍の人たちへの理解を深めるための拠点となることができた。

これらの取組を通して、学校の教育活動において、外国人の人権を尊重した実践的な取組を推進していくことは、外国人への偏見や差別をなくし、共生社会に生きる子供の育成につながっているものと考えている。

(別紙) 実践事例

単元名	朝鮮初中級学校の子と仲良くなろう	対象学年	第4学年
-----	------------------	------	------

○ 人権教育の視点

- ・ 交流を通して、初中級学校の子供たちへの理解を深め、お互いに認め合うことができる。
- ・ 友達の意見に耳を傾け、自分の思いを表現できる。

○ 指導の流れ

	次目標及び学習内容	時間数
第1次	<p><b>朝鮮初中級学校、朝鮮ってどんなところ？</b></p> <p>○ 友達の意見をしっかりと聞き、自分の思いを発表することができる。</p> <p>○ 日本との共通点や違いについて考えながら、韓国・朝鮮の文化に興味関心を持つことができる。</p> <p>□ 夏の交流を振り返る。</p> <p>□ 朝鮮初中級学校のことを予想する。 (児童数、教科、教室、給食・・・など)</p> <p>□ 韓国、朝鮮の位置や、代表的な食べ物、服装などについて理解する。</p> <p><b>朝鮮初中級学校の子に手紙を書こう。</b></p> <p>○ 朝鮮初中級学校の子が読むということを踏まえた上で読みやすい手紙を書くことができる。</p> <p>□ 手紙(自己紹介、質問)を書く。</p>	2時間
第2次	<p><b>朝鮮初中級学校に行こう。</b></p> <p>○ 朝鮮初中級学校の子と積極的に交流し、お互いの理解を深めることができる。</p> <p>□ 朝鮮初中級学校の子と一緒に折り紙でチマチョゴリを作る。</p> <p>□ もっと知りたいことを質問する。</p> <p><b>感想を交流しよう。</b></p> <p>○ 友達の感想をしっかりと聞き、自分の思いを発表することができる。</p> <p>□ 前時に書いた感想文の交流を行う。</p> <p><b>朝鮮初中級学校の子と仲良くなろう。(本時)</b></p> <p>○ 友達の考えを肯定的に受け止め、自分の思いを表現できる。</p> <p>□ 朝鮮初中級学校の子ともっと仲良くなるために、自分たちにどんなことができるのか話し合う。</p>	4時間
第3次	<p><b>朝鮮初中級学校の子たちを招待しよう。</b></p> <p>○ 朝鮮初中級学校の子たちへの理解を深め、お互いを認め合うことで、より良い関係を構築することができる。</p> <p>□ 朝鮮初中級学校の子たちを招待するための準備を行う。</p> <p>□ 朝鮮初中級学校の子たちを招待し、交流会を行う。</p>	5時間

## (本時)「朝鮮初中級学校の子と仲良くなろう」

### ○人権教育の視点

友達の考えを肯定的に受け止め、自分の思いを表現できる。

・準備物：「どんなことができるかな？」ワークシート、振り返りワークシート

★人権教育の視点から特に重要なこと

学習活動	支援及び留意点	評価規準
①前回の交流を振り返り、初中級学校の子との関係がどのようなものであったか発表する。	・前回の交流を思いおこさせ、もっと多くの子と仲良くなりたいという思いを持たせる。	
②目当てを知る。		
もっともっと朝鮮初中級学校の子と仲良くなるためにどんなことができるかな？		
③自分の考えを発表する。	・はじめはグループで発表させ、みんなが自分の考えを聞いてくれるという思いを持たせる。	◎自分の考えを皆に伝えることができる。 ★【技能】
④学習の振り返りをする。 ・ワークシートに自分の考えを書く。	・友達の発表を聞いて、考えたこと、思ったことを書かせる。	◎友達の考えを肯定的に受け止め、感想を書くことができる。 ★【価値態度】

### －「朝鮮初中級学校に行こう」を終えて－

#### (交流の感想)

『自己紹介が終わり、みんなでチマ・チョゴリを作りました。その時、私の横の子が教えてくれたのでうれしかったです。その横の子と友達になれました。名前はAちゃんとBちゃんです。友達になれてうれしかったです。また行きたいと思いました。』

『Aちゃんは前からバレエ部で知っていました。おまつりの時からの友達です。3階に上がって、そこから、折り紙でチマ・チョゴリを作りました。スカートがチマで、服の所がチョゴリで、チマの所を作るのがかたんで、チョゴリの部分がちょっとむずかしかったです。でも、Cちゃんが手伝ってくれてとてもうれしかったです。もっと友達を増やして、その友達とまたいろいろな交流をしたいと思います。』



【朝鮮初中級学校での交流の様子】

『最後に朝鮮初中級学校の校舎を見せてもらいました。名前は分からないけど、楽器がありました。初めて見たのでびっくりしました。こんな楽器があるなんて知りませんでした。案内してくれたP先生はものすごく背が高くて、いろいろ説明してくれました。』